

令和3年1月9日 校長 高倉 満

## □令和3年スタート！今年も『立志・挑戦・感動』

私たちも新たな目標を持ち、次年度につながる動きをつくっていきましょう。

正月の箱根駅伝、創価大学の初優勝は確実と思えた最終10区、駒沢大学が3分の差を逆転しました。日本中の誰もが驚いた瞬間でした。やはり諦めない気持ち、最後まで自分を信じてやり抜く力、改めて大切だと感じました。また2021年、私にとっても大切な年が始まりました。始業式で子どもたちに話したように一日一日を大切に過ごしていきます。生徒や先生方との日常の何気ない会話を楽します。たくさん笑いたいと思います。「塊より始めよ」自分に言い聞かせて生活していきます。残り二ヶ月半、浮羽中職員の優しさに支えられながら頑張っていきます。よろしくお祈りします。

## □傾聴力を高めていこう！

10日後には日田地区の入試があります。来週から入試や公立推薦に向けて面接指導も熱が入ってきます。3年生にとっては落ち着いた日が続きます。また、1年、2年生にとっては次の学年に向けての大切な学期です。生活面、学習面での意識が高まり確実に前に進めている生徒もいますが、なかなか状況が変わらずに足踏みしている生徒もいます。学校の世界では『荒れる2月』と言われるそうですが、イライラしている生徒、生活面で崩れてきている生徒に対して、しっかりと寄り添い、毅然とした態度で指導をしていきましょう。

### ○傾聴とは

『何も言わずにじっと話を聞くだけ』でなく、『話し手の話を、そのまま受け止めながら聞くこと』傾聴では基本的に話し手が話したいことを話したいように、感じたままに自由に話してもらいます。当然ですが、『ただ話を聴いて欲しいとき』に『～してみたら』や『～してはいけんやろ』という感じでアドバイスや説教をされると、それ以上話す気をなくします。相談者が言いたくなるような関係をつくるのが大切です。

### ○傾聴の目的は

傾聴する目的は、『相談者と絶対的な信頼関係を築くこと』です。信頼関係のない人に自分自身が本当につらいこと、苦しいことは話せないからです。

#### 1 話し手をよりよく理解すること

相手を理解するためには、話を聞かないことには始まりません。聴き手がただ黙って話を聴く場合と、話しやすい態度、うなずきやあいづち、オウム返しなどの傾聴技法を心がけながら聴く場合では、話しやすさが格段に違います。

#### 2 話し手とより良い関係を築くこと

傾聴は、話の聴き方であり、人とのかわり方でもあります。自分の意見を聴いてくれる、意見を言いやすい雰囲気のある人とそうでない人とでは、どちらの方が自分の力を発揮しようと思えるかは明らかだと思います。

#### 3 話し手に気持ちを楽にしてもらう、ストレスを解消してもらう

特にいら立ちや不安、寂しさや苦しさなどの気持ちは言葉に出し、分かってもらえたり受け止めてもらえると、それだけで気持ちが楽になる効果があります。

### ○傾聴の方法は

#### 1 目的を伝える

説教や取り調べ？に慣れている生徒はなかなか本音を言いません。だから、『今日はあなたの思いを聴きたい』『あなたのことを理解したい』等、目的を伝える必要があります。

#### 2 時間は決める

最初は『10分ぐらいでいい？』と傾聴する時間を生徒と共に決めます。時間がくれば、『どうする？のばす、それともやめる？』と聞くことで信頼をえることができます。

#### 3 受け止める

聴き手は何も言わずに聴くのではなく

- ①笑顔に②相手の表情を見ながら『うん』『そうなんだ』とあいづちをうつ③うなずきながら④相手が言った言葉を繰り返したり、気持ちを汲み取る言葉を伝えながら聴く

#### 4 会話を切らない

最初から悩みを言えない生徒もいます。『もう言いたいことはない？』『まだあったら聞かせて』など、何を言っても受け入れる姿勢をみせます。